

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第29週（7月19日～7月25日）

今週のコメント

～新しい生活様式の実践～ 手洗い、マスク着用、身体的距離の確保、密閉・密集・密接の回避が重要

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 やや減少」

第29週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は、前週比17.6%減の1,385例であった。連休による診療実日数の減少を考慮する必要がある。

定点あたり報告数の第1位はRSウイルス感染症で以下、感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しん、咽頭結膜熱の順で上位5疾患の定点あたり報告数はそれぞれ3.58、2.15、0.39、0.31、0.30である。

RSウイルス感染症は前週比9%減の705例で、南河内8.75、大阪市北部5.64、大阪市西部4.80、三島3.41、北河内3.23であった。

感染性胃腸炎は26%減の424例で、南河内・大阪市南部3.00、北河内2.92、三島2.82である。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は20%減の76例で、中河内0.85、泉州0.58、南河内0.50であった。

咽頭結膜熱は33%減の59例で、中河内0.70、南河内0.56、大阪市北部0.43である。

RSウイルス感染症は、6ブロックで増加しており、今後の発生動向に注意が必要である。

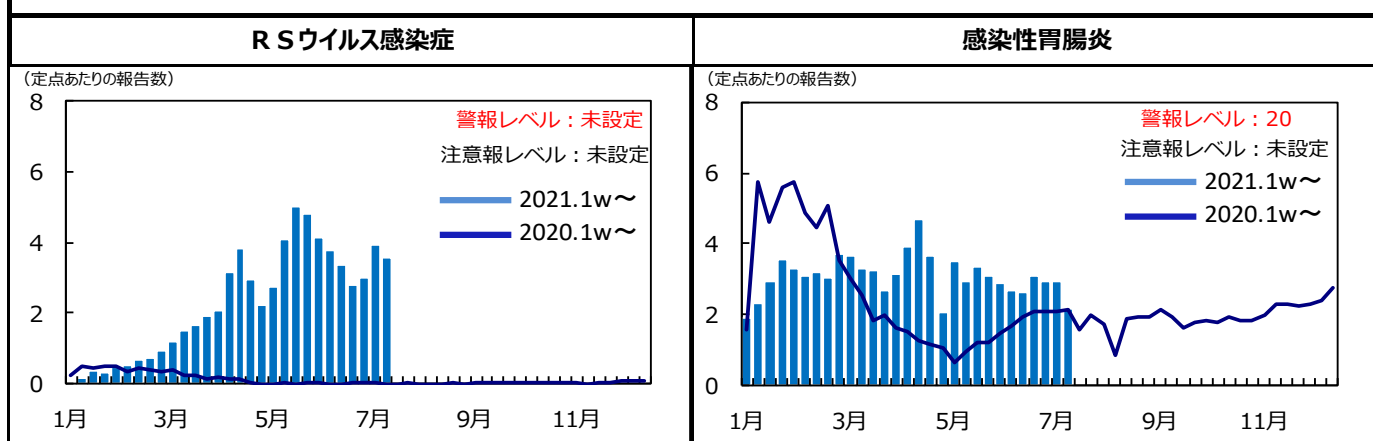


表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第29週7月19日～7月25日）

第29週の順位	第28週の順位	感染症	2021年 第29週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第29週の 定点あたり 報告数	2021年第29週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	RSウイルス感染症	3.58	9%減	0.01	1歳_30%
2	2	感染性胃腸炎	2.15	26%減	2.13	1歳_23%
3	3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.39	20%減	0.62	2歳_17%
4	5	突発性発しん	0.31	9%減	0.57	1歳_52%
5	4	咽頭結膜熱	0.30	33%減	0.15	1歳_34%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。2021年第10週までインフルエンザのコメントを終了しました。

第29週のコメント

～新型コロナウイルス感染症～ 基本的な予防の徹底を
(マスク着用、身体的距離の確保、手洗いの徹底、密閉・密集・密接の回避)

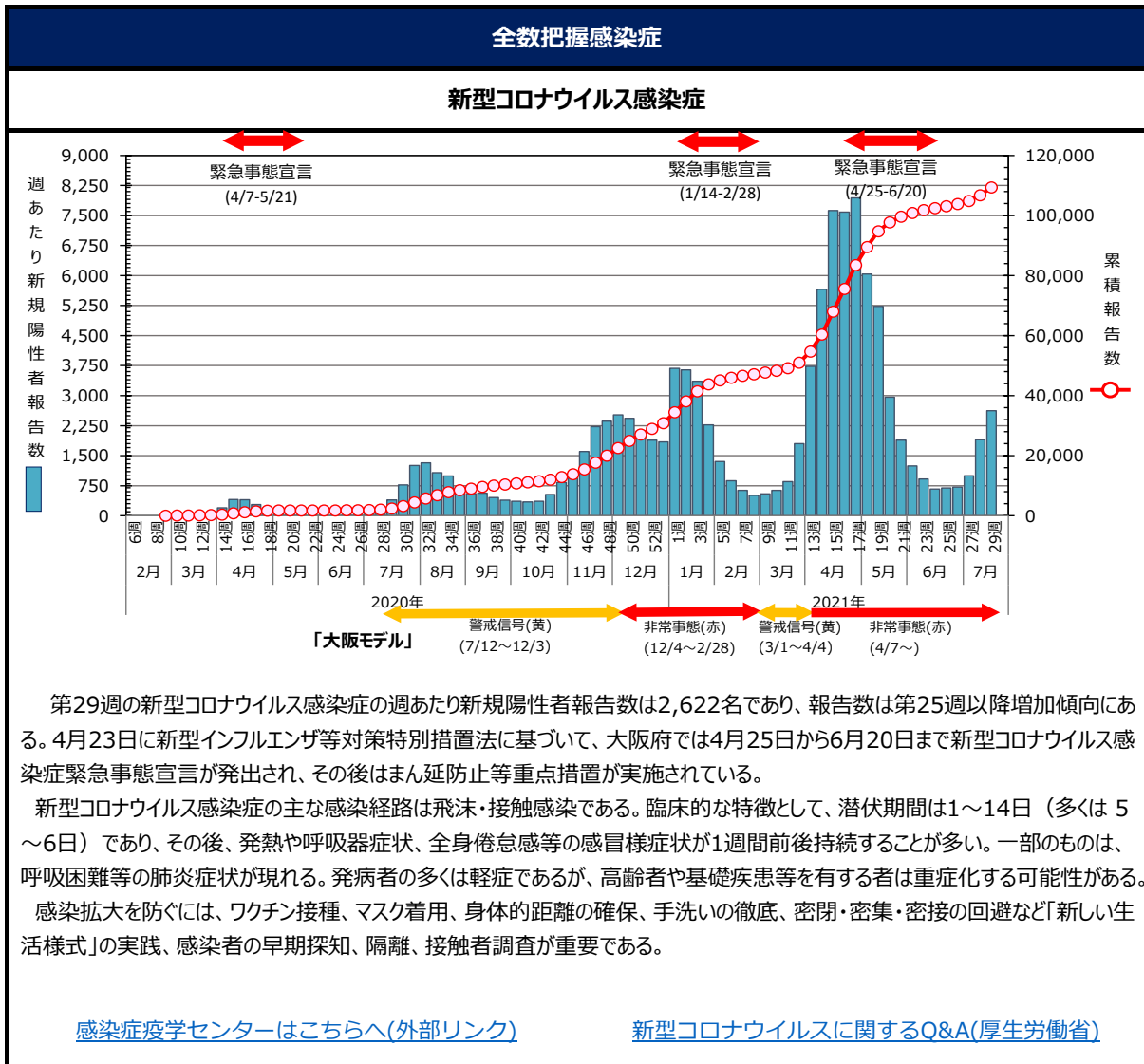


表2. 大阪府全数報告数 (2021年 第29週7月19日～7月25日)

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
(報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ>【週報】発生動向調査>全数報告 をご覧ください。)

疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症 腸管出血性大腸菌感染症	5							3	2	54
4類感染症 レジオネラ症(肺炎型)	8	1	1	1			1	1	3	64
5類感染症	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	1						1		95
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	1							10
	侵襲性肺炎球菌感染症	2		1					1	56
	梅毒	5	1						4	387
新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症	2,622	2020年1月以降累計 109,368								
結核 (2021年5月分)	結核 新登録患者数：58名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 24名) (府内累積報告数 393名、内 肺・喀痰塗抹陽性 131名)									

(2021年7月27日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。